



川井クリニックニュース

平成 20 年第 1 号

平成 20 年 1 月 15 日発行

2008 年を迎えて考えること

2008 年元旦をスキー場で迎えました。天皇杯サッカーでアントラーズが優勝する様子もテレビで見ることが出来、気持ちのよい門出となりました。私も今年の 2 月で 65 歳となり高齢者の仲間入りです。体力の衰えは特に感じませんが、1 日の診療を終えると頭がボーとしてしまい学生時代に試験問題を解いた後の頭の状態が思い出されます。何もこれは最近のことではなく、筑波大学附属病院での外来(週 1 回)から続くものですが、今はほぼ毎日なので大変です。患者さんの訴えを聴きながら、その原因を考え、処方薬を調整し、カルテを読み書きすることは聖徳太子のレベルには遠く及ばないもののなかなかの頭脳労働です。ボケ防止にはなるとプラスに考えてはいますが、歳には勝てず、患者さんと今話していたことでも他のことに気をとられると頭からぬけ落ちることがあります。そのような時には診療時に頼まれたかぜ薬や軟膏が出てないということもあります。あしからずご了承下さい。



さて、1 ヶ月に来院される 2000 名を超える患者さんに少しでもよい医療をと考え、冬休みの間に考えたことは、1) **受付事務部門の充実**、2) **レントゲン写真のデジタル化**、3) 頸動脈の動脈硬化度を調べる **超音波診断(IMT)の多数例での実施**、4) **スタッフ個人の能力向上**です。昨年 1 年間に新しいスタッフを補充しましたので、現在看護師(常勤 3 名、非常勤 3 名)、管理栄養士(常勤 2 名)、臨床検査技師(常勤 5 名)、医療事務員(常勤 5 名)となり人員に余裕が出来ました。採血、検査部門も最初は人数が増えただけでうまく機能しませんでした。前号のクリニックニュースでも述べたように、検査室の流れはスムーズになってきています。一方、診察後の医療費の計算や調剤は、受付対応や電話対応と平行し患者さんペースでやらないと行かないのでなかなか大変です。配置を考えて機能的に各々が働けるようにしたいと考えています。定期通院をしている多剤処方患者さんの薬は予約がある場合あらかじめ作ってあります。薬が余っている場合には、細かな日数変更はしないでまとめて変更した方がお互い時間の節約になりますので、宜しくお願い致します。また、電話での問い合わせ等は比較的空いている午後をお願い致します。あまりレントゲン撮影を行わない当院ではありますが、レントゲン写真のデジタル化は現像時間の節約や水銀を含む廃液を無くすことが出来る等の利点があるので、夏頃を目安に行なっていく計画です。また、頸動脈の動脈硬化度の超音波診断(IMT)は脳動脈や心臓の血管(冠動脈)の動脈硬化度の推定に役立ちます。その結果を生かして

糖尿病で生活の質が損なわれる主な原因である脳梗塞、心筋梗塞の予知、予防に役立てたいと考えています。最後は職員各々が向上心を持って仕事に取り組むことです。各々の良い点を伸ばし、欠点を改め、糖尿病や高血圧等で来院される患者さんの知識に負けないう、そして的確なアドバイスができるよう研鑽に励んでもらいたいと考えています。

私も論文を書こうと思います。

簡単ではありますが新年の抱負と 2008 年の計画を挙げてみました。スタッフ一同気を引き締め、皆様の最良のガイドとして役立てるよう頑張っていく所存です。本年もどうぞ宜しくお願い致します。

(院長 川井 紘一)



桐の木会報告

11月28日(水)にスタッフを含め24名で東京都の青梅市にある**御岳溪谷散策**に行ってきました。朝の天気は曇り空と気温も低く、雨が心配されましたが次第に雲も去り、隙間からは光が射し込み赤く染まった紅葉やイチョウが綺麗に輝いていました。行程には4km程の散策が盛り込まれており、途中の楓橋や遊歩道からは紅葉だけでなく溪谷美を眺めながら清流の流れを楽しむこともできました。また、美術館では日本女性の髪形の変遷や櫛、かんざしなどの装飾品を興味深く見学しました。昼食には梅をふんだんに使った低カロリーの食事を頂き、とても美味しかったです。



さて、帰りのバスで**来年度の日帰り旅行は鎌倉**にという声が挙がりました。一味違う旅行を期待したいと思います。

次回の「桐の木」会は**3月5日(水)に調理実習**を行います。脂質や塩分を控えた料理と控えていない料理の2種類を作り、味比べをする予定です。塩分や脂質が控えめでも美味しい料理の秘訣を考えていますので皆様ふるってご参加ください。

止血について

最近、採血後に押さえが足りず採血をした部位から血液があふれ出し、衣服を汚してしまう患者さんがしばしば見られます。血液は一旦衣類に付いてしまうと落とすのが困難なため出来る限り避けたい事態です。

当院では毎回採血があるため、スタッフも出来る限り患者さんの苦痛をやわらげようと日々技術の向上に努めております。また、採血時の痛みを軽減するため、少量の採血量で検査が出来る場合には細い針を使用しています。しかし、**年に数回太い針**

を使用する検査があります。例えば、貧血の検査や電解質の検査です。これらの検査では細い針を使用してしまうと血液内の血球成分が壊れてしまい、正確な



検査結果が得られなくなってしまいます。採血終了時にスタッフから「針が太かった」と声がかかった時は**しばらくお掛けになってしっかりと採血部位を押える**ようにしましょう。特に寒い時期は衣類を沢山着込んでいるため採血部位を圧迫してしまい血液が止まりにくくなっていますのでご注意ください。また、心筋梗塞や脳梗塞を予防するため**血液を固まりにくくするお薬を飲んでいる方**は、針の太さに関係なく採血部位をしっかりと押えるようにしましょう。

医療福祉研究集会

2007年11月23日**いばらき医療福祉研究集会**がつくば国際大学で行われました。毎年行われるこの研究集会では、地域の病院や診療所から医療・介護・福祉のあり方や問題について様々な話題が報告され、それらを共有、改善していくことが目的とされています。当院では、“**糖尿病合併症リスクに関する遺伝子調査**”について発表してきました。患者さんに協力して頂いた遺伝子に対する意識調査結果を集計したもので、他院の先生方より多くの質問が飛び交い、活発に討議される場となりました。また、糖尿病等の生活習慣病に関する話題以外にも幅広い医療分野での話を聞くことができ、普段知ることができなかった医療の現状に目を向ける機会にもなりました。一般公開されている研究集会なので来年は是非足を運んで見てください。**毎年11月23日(祝)に開催**されます。これからの医療問題について、患者さんと医療従事者で共に考えていきましょう。

新スタッフの紹介

昨年10月に**臨床検査技師・堂路良子**、12月に**看護師・植木理恵**が新しくスタッフとして加わりました。慣れるまでご迷惑をおかけすることと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。